



特別支援研修会 ～すべての蓼高生が、幸せな人生を歩むために～

初めに。私は常日ごろ、子どもたちが充実した高校生活を送るだけでなく、将来幸せな人生を歩むことを見越して指導することが、高校教育の理想だと思っています。それを実現するための要は進路指導にあり、生徒一人ひとりの特性を教員が理解し、適切な進路につなげていくことが大切です。

さて、蓼科高校では11月4日(水)の放課後、長野県佐久技術専門学校の障がい者職業訓練コーチである篠原一彰先生をお招きして、職員研修会を行いました。本校の先生方は、日頃様々な特性を持つ生徒に対し、適切な教育活動を行う優れたプロ集団です。しかし県内高校の進路指導において、障がいを持つ子どもの指導セオリーは十分確立されていませんし、現在本校を含めどの学校でもケースごとに手探りの状況です。

篠原先生は豊富な経験から、外部機関や家庭との連携の取り方、特性にマッチする業種など、実際にあったケースを交えて具体的にお話し下さいました。今回の研修は、現在進行形で指導に悩んでいる担任の先生には、とてもよい機会になりました。最後に、先生がおっしゃった生徒の進路をケース会議で検討できる体制づくり。これは学校と外部機関と家庭が子どもを真剣に思う熱意にかかっていると感じました。



今年初の学校評議員会が開催 ～よりよい地域との連携を目指し～



11月6日(金)は、学校評議員会が会議室で開かれました。新型コロナの影響で、6月の会が中止になったので、今回は第1回目です。7名中5名の委員の皆様が出席して下さいました。学校側からは今までの校内諸活動と学校評価の中間報告がなされ、今後の本校と地域発展についての構想案を私が述べました。詳しい内容は次回に取り上げる予定です。

学校側の説明が長くなり、意見交換の時間が少なくなりましたことは、今後の反省です。

委員の皆様からは、本校の特別支援体制について、進路未決定の卒業生の指導や進路データ蓄積の目的についての質問、蓼高コンソーシアム構想についての意見等が出されました。委員の皆様のお知恵を借りながら、今後の学校運営に活かしていく所存です。貴重なご意見をありがとうございました。

困ったお話(その13) またまた縁起物がやってきた!



理科のA先生から電話が入った。『校長先生、化学教室にフクロウがまた迷いこみました。』

またか。5月に屋上の通気口の直下にある化学教室に入りこみ、理科の先生と大捕り物を演じた末、逃飛行したヤツかも知れない(この様子は、HP「蓼高 Days 5月11日参照」)。私はさっそく現場へ急行した。

化学教室に入ると、やっぱりだ。前回と同じ化学教室にある用途不明の空間に入りこんでいる。その空間と教室はガラス戸で仕切られているので、2度目になるA先生は手慣れた様子で戸を開けた。

バサバサ!! 鋭い羽音とともに、前回と全く同じ姿形のフクロウが勢いよく飛び出し、東の壁に激突した。

落下した哀れな彼を写真に収めようと近づいた途端、私に躍りかかり思わずのけぞった。そして一転すると開放した窓から一目散に逃げていった。その間数秒。前回もそうだったが、あまりにも素早く撮れたのは逃走シーンだけだった。

でもこれは以前の青大将と同様、吉祥だ。なぜならばフクロウは古今東西、縁起の良い鳥と考えられているからだ。日本では「福来郎」だとか首が回ることから「金運上昇」とか、夜目が利くことから「見通しが明るい」と言われている。海外でも「知恵の神」や「危険を予知する預言者」とされている。

しかし、海外での認識を皆が知ったら疑問を感じ、困ったことにこう思うだろう。



『壁に激突したり同じ過ちを繰り返すそそっかしさは、まるで校長を見るようだ。』